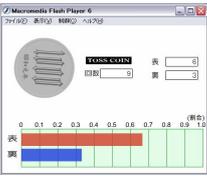
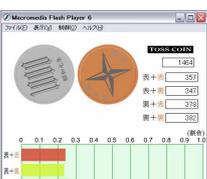
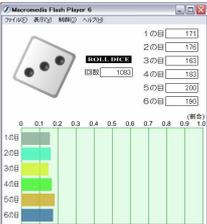


# 数 学 科 学 習 指 導 案

年・月・日	平成 年 月 日 ( )	年・組・コース	年 組		
授業者	吉田 奏介	単位数	2 単位		
科目	数 学 A	使用教科書	新編 数学A		
単元	第1章 場合の数と確率 第3節 確率				
指導計画	第3節 確率 ( 13時間扱い / 1時間目) 事象の確率 3時間 ←本時 確率の基本性質 4時間 独立な試行と確率 3時間 期待値 2時間				
本時の目標	確率の意味と用語をとらえ、確率の基本的な定義を理解する				
段 階	指 導 内 容	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 の 観 点	
導 入 5分	身近な確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>確率と聞いてすぐ思い当たるものは何か →降水確率、さいころ、コイン、打率…</li> <li>各確率の特徴に触れる →統計的確率と数学的確率について 「過去から分かること」 「未来を予測する」</li> <li>確率は「事柄の起こりやすさを数値化したもの」である。</li> <li>「<math>\frac{\text{(求める)部分}}{\text{全体}}</math>」</li> </ul>	確率についてのイメージをあげさせる。  確率の大まかな考え方を示す。	[関心・意欲・態度] 意欲的に取り組むことができるか  [数学的な見方や考え方] 確率についてのイメージをもつことができるか。	
展 開 35分	実際に確率をみてみよう  どの確率が高いか？  なぜこのような結果になったか？	プロジェクタ投影 ・表が出る確率は $\frac{1}{2}$ ・実際にやってみると… $\frac{1}{2}$ に近づく ※統計的と数学的を結びつける  ・2枚の硬貨を投げるときの確率を考えさせる (表、表),(表、裏),(裏、裏) 【予測】すべて同じ。 表裏、 $\frac{1}{3}$ では？ ・実際にやってみると… 表裏が高い  ・硬貨を区別する必要がある硬貨を替えてもう一度実施してみる すべて同じ確率になる  確率を考えるときには根元事象がすべて同程度に起こらなくてはいけない。	  	既習事項の確率の出し方とコインの表が出る確率の確認。  生徒にあて考えさせる。  導入の話と結びつける。  何故かを説明できるようにであれば聞いてみる。  全事象を考える際には硬貨を区別し、根元事象が同様に確からしいことを考える必要があることを考えさせる。	[知識・理解] 確率の基本的な考え方を覚えているか。  [数学的な見方や考え方] 確率を予測させ、自分の考えを整理することができるか。  [数学的な見方や考え方] 同様に確からしいことの必要性を感じることができるか。
整 理 10分	まとめ  さいころにおける確率	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般に、ある試行において、どの根元事象が起こることも同程度に期待できるとき、これらの根元事象は同様に確からしいと言う。</li> <li>根元事象と確率の関係をさいころで確認する。</li> </ul>		すべての根元事象が同様に確からしい場合に限り、確率の定義が有効であることを確認する。 導入の話や実験の結果を結びつけながらまとめる。  さいころのケースでまとめを確認する。	[知識・理解] 同様に確からしいこと、確率の定義を理解することができるか。